



こだち News

目次

平成26年度
事業計画 2

平成25年度
臨床心理サー
ビス事業統計 3

掲示板 4

巻頭言

臨床の達人を想う

九州大学大学院人間環境学研究院臨床心理学講座 教授 遠矢浩一

この原稿を書いている4月中旬、九州大学臨床心理学講座は、また、新しく多くの大学院生を迎え入れることができました。修士課程に、臨床心理学指導・研究コースおよび実践臨床心理学専攻をあわせた26名、博士後期課程に13名です。心からご入学をお祝い申し上げます。

私自身、臨床心理学に携わるようになり、ふと気づけばおよそ30年がたとうとしています。九州大学の教員としては、まさに、20年、「成人式」を迎えようとしています。学部生時代の脳性麻痺児の臨床動作法一週間キャンプへの参加に始まり、脳卒中後遺症による失語症者の心理療法、高次脳機能障害者の認知機能訓練、自閉症児のプレイセラピー、発達障害児の集団心理療法である「もくもくグループ」、児童養護施設入所児童の心理療法、障害をもつこどものきょうだい児支援である「のびのびグループ」など、九州大学で学びを深めてこられた皆さんであれば、一度は、見聞きし、関わったことがあるであろう、様々な活動に携わってきました。ある意味、自分の立ち位置を探し求める30年であったように思います。

気がつけば、臨床動作法にしろ、発達障害児支援にしろ、臨床の技術を学生たちに伝承すべき立場になりつつあります。そうした今、私は、「芸」ということについてときどき考えるようになりました。気がつけば私たちの周りにおられる臨床心理学の先人には、俳句や短歌、華道や茶道、竹細工、作詞、随筆など、学問の傍らで、自らの趣味を越えた「芸」を磨いておられる先生が少なくありません。しかし、そうした先生方は、間違いなく、臨床技術においても、その考え方においても、「達人」なのです。芸と臨床技術、そこに、通じるものが何かあるのでしょうか。

芸道とはなにか。単に何らかの技や芸に秀でているということではないようです。比較演劇論の立場からアンドレアス・レーゲルスベルガーは、“「芸術」についての考え方で重要な点は、美学的、技術的なことで終わらず、芸とともに生きるという考え方が存在することである。この観点があるからこそ、芸の道、芸道、という言い方がなされるのである。”と述べています。そして、“日本の芸術論の中では、「型」という概念において「道」が「芸」へ集中していく。その型という要素は大事な役割を果たしており”、“ある演じ方が具体的に定義された形に成型され、そのまま変化することなく伝承される”と分析します。芸を極めていくためには、その芸とあるがままに生き、その芸に通底する精神があることを受け入れ、先人のたゆまない努力によって容易に形を変えられることなく

純粋に伝承されてきた型を「血肉化」することが必要なのです。古き名言に、「古に稽へて今を照らす」、「格に入り格を出でて、はじめて自在を得べし」、といったことばがあります。私たちが、患者さんを前にして日々、奮闘するなかで、毎日のように悩み、考え、戸惑うとき、まず、私たちがしなければならないのは、こうした「芸道」にも通じる、その「格」とともに居続ける「初心」ではないのでしょうか。

達人たちの「芸道」を想いつつ、その跡を追いかけてみたいと考える今日この頃です。

平成26年度の事務局

事務局の体制が次の通りになります。

理事長：

田嶋誠一

事務局長：

中村俊夫

相談室長：

増田健太郎

心理臨床部長：

姫島源太郎

事務局：

月岡寛子

林寛子

宮原里依子

山口雄介

準事務局：

金子翔

堀内美穂

本田麻理南

前田理充

(五十音順)

どうぞよろしく

平成26年度事業計画



当法人は「臨床心理サービス事業」「協働事業」「研究事業」「研修事業」の4つの枠組みで事業を展開しています。平成26年度の各事業計画をお知らせします。



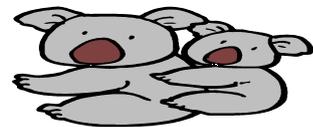
臨床心理サービス事業

カウンセリングルーム「こだち」では、臨床心理士の資格をもつ相談員が、心理面接を担当しています。

家庭学習支援事業では、不登校や発達障がいを抱える児童生徒を主な対象として、主に臨床心理学を専攻している大学生・大学院生の家庭教師の派遣を行っています。家庭学習支援事業では「①家庭学習支援員の派遣」「②保護者相談」「③家庭学習支援員の資質向上（研修）」の3つを1セットとして行っ

ています。

思春期居場所支援事業（ここりーと）では、不登校児童生徒やひきこもりの青少年を対象に、水曜日と金曜日の13時～16時にこだちのプレイルームを使ってフリースペース活動を行っています。スタッフ数名とゲームや折り紙、おしゃべりをしたり、ゆったりとした時間を過ごしています。また活動前後にミーティングを行い関わり方などの話し合いをします。



協働事業

地域のニーズに応じて、カウンセラー・講師派遣事業を継続的に実施してきました。講師派遣に関しては好評のものも多く引き続き依頼が届いている機関も多くあります。今年度も引き続き、大学生、社

会人等を対象としたキャリア支援講義、ストレスケア講義の講師派遣を行っています。

他に、一般企業の入社試験で使用する適性検査の作成等、企業との協働事業を行っています。



研修事業（こだちゼミナールも合わせて紹介します）

平成26年度は、下記の研修会を企画しています。年度途中にも研修会を企画・実施していきます。参加申込はこだちからのチラシやホームページにも掲載しておりますので、ご参照ください。

○九大こだちゼミナール 2014

九州大学の心理学を専門とする教授陣が、毎月のゼミを通じて日々の暮らしが豊かになるように「人間関係とストレス—多様な観点から—」と題して、講義や実習を行っています。

○こだちロールシャッハ研修会

本年度で6回目となるロールシャッハ研修会です。本年度は前半2回で基本の講義、後半の4回はロールシャッハ法の事例を継起分析を中心に見ていきます。スコアだけに終始しない、クライアントの内界を理解し味わっていくための一味違ったロールシャッハ研修会です。

○現場で使える臨床動作法 2014

平成23年度から開始し4回目の実施となります。成瀬先生を始めとした九州大学の教員が講師となり、臨床動作法の理論から実践までを共に学びます。今年度は9月28日（日）に開催予定です。

○セラピスト・フォーカシング研修会

臨床面接の場におけるセラピストの体験をフォーカシングを用いてゆっくりと味わい、確かめていく研修会です。リピーターも多く、好評につき今年度で8回目を迎えます。

○こだち精神医学講座

講師に三木浩司先生（平成紫川会小倉記念病院）をお招きし、精神医学に関する研修会を開催します。ワークショップ形式で開催予定です。

○事例で学ぶテストバッテリー

昨年度に引き続き今年度も開催致します。6月15日（日）に開催予定です。知能検査と投射法でテストバッテリーを組んだ事例から、テストの読み解き方、活用の仕方について、高橋靖恵先生（京都大学）を講師にお招きして1つの事例を1日かけてじっくり学んでいきます。

平成25年度事業報告

平成25年度も様々な活動を行いました。「臨床心理サービス事業」「協働事業」「研修事業」の各事業ごとに事業報告を行います。

◇臨床心理サービス事業

こだちでは臨床心理士の資格をもった相談員の心理面接が事業の大きな柱となっています。平成25年度は年間151件の電話受付があり、そのうち98件（男性42名、女性56名）の方が実際に来談されています。カウンセリングルームこだちにおける平成25年度の総面接回数は1,428回となっており、平成25年度も多くの方にご利用いただきました。

相談内容は、子どもや保護者の方の相談（不登校、発達の相談、親子関係、友人関係等）や成人の相談（家族関係、対人面での悩み、会社の人間関係、うつ等）と、多岐に渡る相談内容があり、医療機関と連携しながら面接を実施しているものも多くあります。面接の中で必要に応じて検査の実施等も行っています。また、福岡市内や県内はもとより、県外からも来談いただいています。

家庭学習支援事業にも例年通り多くの申し込みをいただき、派遣回数は372回となりました。平成25年度で4年目となったこだちゼミナールは、一般市民向けに実施しています。例年定員を超えた申し込みをいただいております。平成25年度も好評のうちに終了しました。思春期居場所支援事業（ここりーと）も九大の大学院生がスタッフとなり、安定した活動を行っています。

図1. 電話受付件数

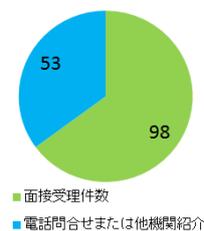
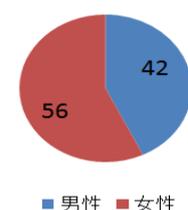


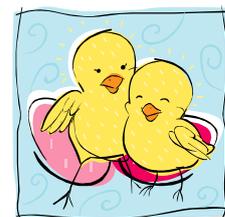
図2. 性別



◇協働事業

一般企業や行政・教育機関、病院等へ講師派遣を行い、平成25年度は14か所で研修会を行いました。好評をいただいております。多様なニーズにお応えしております。また、一般企業入社試験で使用される適性検査の作成依頼を受け、作成を行いました。

臨床心理学の知見を活用した地域社会への貢献を設立理念として挙げていますが、会員のみなさまのご協力から、地域の多くの企業、病院、学校とのつながりが広がってきています。



◇研修事業

平成25年度は「こだちロールシャッパ研修会」「セラピスト・フォーカシング研修会」「こだち研修会『病院臨床を学ぶ』」を継続型の研修会として実施しました。また「現場で使える臨床動作法2013」「こだち小さな事例検討会」等のワークショップ型の研修会も企画・実施しました。

今後ともいろいろな研修会を企画・実施していきたいと考えています。研修会に関する感想やご意見をぜひお寄せください。

◇その他

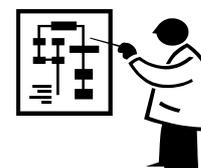
第7回定時総会特別企画として、黒木俊秀先生（九州大学）をお迎えして公開スーパービジョンを開催しました。また、設立七周年記念講演会には富永良喜先生（兵庫教育大学）をお迎えして「危機をのりこえる心を育てる一日常の中で私たちができること」と題した講演会を開催しました。それぞれの会に、100名を超えるご参加をいただき、感想からも非常に好評をいただきました。

研修会のお知らせ

一市民向け心理学講座— 「九大こだちゼミナール 2014」

今年度の九大こだちゼミナールの日程が決まりましたので、お知らせ致します。研修会の詳細をお知りになりたい方は、こだちにお問い合わせください。お申し込みをお待ちしております。

第1回	6/21 (土)	14:00~16:00	第5回	10/18 (土)	14:00~16:00
第2回	7/12 (土)	14:00~16:00	第6回	11/15 (土)	14:00~16:00
第3回	8/ 9 (土)	14:00~16:00	第7回	12/20 (土)	14:00~16:00
第4回	9/20 (土)	14:00~16:00	第8回	1/24 (土)	14:00~16:00

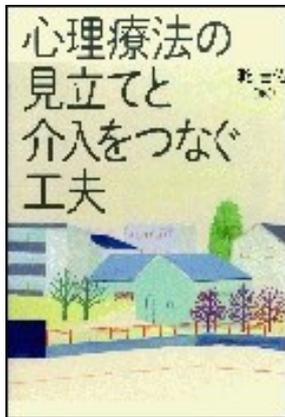


書籍紹介

心理療法の見立てと介入をつなぐ工夫

乾吉佑編 金剛出版

心理療法においては見立てが重要視されています。見立てをどのようにおこなうのか、そしてどのように介入に結びつけるのかについて、様々な学派のセラピストが論じています。当法人会員である九州大学の太場信恵先生も「臨床動作法の見立てと介入をつなぐ工夫」と題して、論文をご執筆されています。



見立てと介入をどうつなぐかというのは、各人のセンスが問われる部分だと思います。自分のセンスを磨くのに役立つ一冊になるでしょう。

〇入会のご案内

こだちは今年で8年目を迎えます。地域に定着した心理臨床サービスを継続するには、収支の安定が求められます。

NPO法人の会員となって私たちの活動を支援いただくと幸いです。会員になっていただける方はぜひこだちまでご連絡ください。なお、会費は1年毎の更新制です。よろしくお願いたします。

〇ご支援のお願い

当NPO法人では会員以外の方からも、ご寄付をおまわししております。関心や興味をもたれた方はぜひご連絡ください。

編集後記 今年度のこだちは8年目。人間の歳で考えると小学2～3年生ぐらいのわんぱくざかり。すり傷を作りながら野山をかけまわり、ワクワクを探し求めるお年頃。こだち一同、ワクワクするような活動を展開して参りたいと思います。(Y)

交通のご案内



■ ■ 地下鉄でお越しの方 ■ ■

福岡市営地下鉄空港線西新駅下車後
7番出口より徒歩にて約10分



特定非営利活動法人 九州大学こころとそだちの相談室

〒814-0002
福岡市早良区西新2-16-23 九州大学西新プラザ内 産学交流棟

TEL 092-832-1345 FAX 092-832-1346
HP http://www.geocities.jp/npo_kodachi/